

輝け、まだ見ぬ自分!

基調講演 「求められる人材と女性活躍」

理系学生・高校生応援プロジェクト

Be Ambitious!

夢に向かって決意の瞬間

7月17日、「日経ウーマノミクスフォーラム理系学生・高校生応援プロジェクト 夢に向かって決意の瞬間」(主催=日経ウーマノミクス・プロジェクト実行委員会)がハービスホール(大阪市北区)で開催された。関西の高校生や大学生・大学院生らが参加し、基調講演のほか、ワークショップやディスカッションなどを実施。なぜ大学に行くのか?何を学ぶのか?自分に問いかけ、未来を思い描いた。



高校生座談会 「Youは何しに大学へ?」



どのグループでも活発な意見交換が行われた

語り合う将来の夢

どんな進路、大学を選ぶべきか—。約300人の高校生らが主役になって、本音で議論するユニークな座談会が、大阪府立大学の理系女子大学院生チーム「IRIS」が進行役となって開催された。

参加者からの質疑がリアルタイムで行える「Slido」などを使って、議論を深めた。まず司会者が「志望大学は決まっているか」と問う

と、参加者の答えはほぼ半々。「医学部などで再生医療の研究をしたい」「欲しい資格がある」。

一方、「将来やりたいことが決まってない」「工学か経済学か決めきれしていない」などという等身大の高校生の率直な意見もあった。

休憩後はグループに分かれ、大学に入ってからやりたいこと、大学を選ぶ基準などについてディスカッションする場になった。「オープンキャンパスなどを活用して大学の雰囲気を感じることが進路選択の参考になるのでは」「高校生同士で意見を交換することで、自分

指す。

実際にビジネスを進める際には、今の自分の行動に対して、常に目的意識を持っておきたい。自分たちが向かっている方向が合っているか、スケジュールに問題がないかなどを振り返りながら進んでいくことで、確実に目標に近づくことができるはずだ。

高校生の皆さんには、学校生活でのクラブ活動や委員会、今日のようなイベントへの参加を通じて、チームシップやコミュニケーション能力を培ってほしい。チームにおける自分の役割が何かを考えながら、他者と積極的に関わっていくことで、コミュニケーション能力を磨いていける。世界はめまぐるしく変化し、ビジネスにもスピードが求められる。世

北野美英氏
コーポレート・アフェアズ本部長
日本イーライリリー執行役員



大学卒業後、大手外資系企業に入社、生産統括本部に配属。生産統括本部ウーマンズネットワークの立ち上げにも携わる。ドイツ・米国赴任などを経て企業広報CSR部長になる。2013年、日本イーライリリーに入社。広報・政府渉外のディレクターを経て16年より現職。

界とリアルタイムでつながるために、英語の習得に挑戦することも勧めたい。

当社を含む多くの企業が女性にとって働きやすい環境を整え、多様な働き方が実現している。自分らしく輝ける場所を探しながら、4つの力を磨いてほしい。



参加者の声をまとめたグラフィックレコーディング

の将来像が見つかる気がする」など、大学選択のきっかけについて議論したグループが多かった。

中には「興味のある分野で、高い評価を受けている教授を自ら訪ね

て、詳しい話を聞いてみたい」「将来に向けて視野を広げるために、留学できるかどうか重要なポイントになる」「就きたい職業に直結するかどうかで、大学や学部を選ぶべき」などと考えるグループもあった。

多くの高校生に共通していたのは、関心や興味のある分野に進みたいという思いだが、具体的な考え方には個性があるようだ。それを反映するかのよう、個人の意見や感想を表示するホワイトボードは、2時間弱の議論の間に、様々なメッセージで埋め尽くされた。

社会の各分野で活躍する女性たちのメッセージ

京都大学大学院
理学研究科
准教授

浅井 歩氏



研究職は、様々な「なぜ・どうして」に挑む、やりがいのある楽しい仕事です。またそういう謎を解くことに性別はかかわりなく、女性であることによる不利益も少ないと思います。「困難なこと」は多少あるかもしれませんが。私は家族・上司・友達から多くの理解と支援があり、パズルを解くようにそれら乗り越えています。夢に向かう皆さん、それぞれの道を楽しみながら進んでください!

大阪大学
接合科学研究所
准教授

梅田純子氏



「地域に生き世界に伸びる」が大阪大学のモットー。本学にはあらゆる「オモロイ」が満ちあふれています。社会で活躍するために必要な力が身につく実践的な授業や世界最先端の研究、生涯を通じた仲間や教員との出会い、グローバルで緑豊かなキャンパスライフ!大阪大学で主人公となり、オモロイと感じることにチャレンジして、あなたの「物語」を一緒に作りましょう。

神戸大学大学院
農学研究科
助教

福田伊津子氏



今回のフォーラムでは、キャリアパスから腸内細菌に関する研究まで幅広く紹介させていただきました。私自身、まだ道半ばですが、人生の岐路でベストな選択をしたかどうかは振り返ってみても分からないもので、ベターな選択を積み重ねて、そこで精一杯力を注ぐことがまた次のステップにつながると信じています。やりたいことに向かって色々なことを学びましょう!

関西大学
システム理工学部
機械工学科 助教

大友涼子氏



何かと注目の理系女子。しかし実力は性別に関係なく、自身の努力次第です。主体的に考え、論理的に思考を組み立て、人に分かりやすく伝える—大学の研究で身につくスキルは就職後も役立ちます。理系学部で研究を重ね、技術を学ぶことは、手に職を持ちたいと願う女性にもいい選択肢。女性が研究職を続けられる環境が整いつつある今、臆することなく挑戦してください。

立命館大学
古気候学研究中心
副センター長・准教授

北場育子氏



気候変動の研究と言えは聞こえはいいけれど、実際にやっているのは、ワニのいる湖で泥を採ったり、道端の苔を拾ったり。大人たちにやめなさいって言われてきたことばかり。危険も責任も伴うけれど最高に楽しい!本当にやりたいことは、大人になるにつれて自分を縛ってきた「枠」の外にありました。子どもの頃の純粋なワクワクの中に、夢の原点があるかもしれません。

京都女子大学 教務部長
家政学部食料栄養学科
教授

中山玲子氏



本学食料栄養学科では、栄養士・管理栄養士(国家試験受験資格)、食品衛生管理者・監視員(任用資格)、栄養教諭、家庭科教諭などの資格が取得でき、医療・福祉、行政、食品、教育の分野で、「食」を通じて社会に貢献する人材を育成します。さらに大学院(博士前期課程・後期課程)に進み、研究を続け、より専門的な立場で活躍することもできます。皆さんも自分の未来を開くために、是非本学の門を叩いてください。

京都産業大学
情報理工学部
教授

河合由起子氏



スタンフォード大の講義で「5ドルを2時間で増やす」課題が出され、学生は熟考し、成果(儲け!)を出せました。たった2時間ですが目の前の課題に真剣に取り組むことは、実は将来の選択肢を増やすことにつながっているのです。目標や夢のために「今すべき事は何か」を考えて取り組んでみてください。きっと将来の夢に近づけると思います。

高校生が未来描く

日経ウーマニクス
プロジェクト

高校生グループディスカッション結果発表会

□ 伝えることの難しさ実感 □

シンポジウムの締めを飾ったのが、グループディスカッション「豊かな社会と女性活躍 知の探究」



皆が積極的に意見を発信。ホワイトボードや付せんを使って考えをまとめた

常識通じぬ未来を開け」の結果発表会だ。

高校生47人が、「製薬」「エネルギー・環境」「生活・健康」「食品」「情報技術(IT)」の5テーマを選択。それぞれの分野で豊かな社会を実現するアイデアなどについて、約2時間議論した。初対面の高校生が多く、冒頭は緊張のせいで、会話を進まなかったようだが、ファシリテーターの体験談などが呼び水になったのか、次第に議論は白熱。各グループのメンバーが協力して、発表会に挑んだ。

最初に舞台に立った製薬グループは、まず「全員が平等に心身ともに健康で過ごせる社会を実現したい」という大きな目標を設定した。

そして手段として、「医薬品の価格をできるだけ下げられるようにしたい」「医薬品に対する知識を広く提供すると同時に、バリアフリー社会の実現にも貢献すべき」などと語った。現状と目標を近づけるための課題としては、「より多様な考え方を受け入れる柔軟な社会が必要だと思う。女性の視点を取り入れるというだけでなく、既成概念にとらわれない、ユニークなアイデアを大切にできる土壌が必要では」と分析した。

エネルギー・環境グループは、国内でもっと再生可能エネルギーを活用する具体策を絞り込んだ。地形の問題などもあり、発電所と需要地が離れていることが効率を下げ、高コストにつながる現状を打破するため、「都会特有の強いビル風を使った小型の風力発電を導入できれば、電力の地産地消につながる」と独自のアイデアを提示。さらに再生可能エネルギーに対する理解や新技術の開発が広がれば、大量生産によるコスト削減は可能だと訴えた。

議論は技術面にとどまらず、「女性の社会参加は、今や男性の問題でもあるのでは。育児や介護などで互いを思いやる意識がなければ、政府や行政だけでは問題は解決できない」と、環境を含めた未来の共生社会のあり方にまで及んだ。

生活・健康グループは、「差別など女性を取り巻く現代の問題の原因は、知識や相互理解の不足が大きい」と指摘。その上で、「介護士や保健師、保育士などを増やす取り組みなどで、女性が育児や介護によるキャリア断絶を乗り越えられやすい環境を整備してもらいたい」。さらに、企業である化学メーカーにも、汚れが落としやすい食器洗剤や髪が乾きやすいシャンプー、使いやすいおむつ素材など、身近に役立つものづくりで、将来世代にも役立つ社会貢献に関与できると期待していた。

□ 多様な取り組みを提案 □

食品グループは、「少子高齢化や安全性の重視、健康志向の高まりなど、ニーズの変化に適応した様々な食品を提供していくべき」。その実現のためには、女性リーダーが商品開発をリードしていく職場環境の整備が必要ではないかと語った。

ITグループは、「性別や人種、年齢の違いによる教育機会の格差の解消が不可欠である」と訴えた。また情報分野などで活躍する女性が少ないことが、女性のサイバー犯罪被害者の増加につながっているのではないかと問題提起した。

大阪大学・副理事の望月正人教授は「議論は結果だけではなく、多様な意見をまとめる地道なプロセスが重要であることを再認識させてもらった」と総括した。



授は「議論は結果だけではなく、多様な意見をまとめる地道なプロセスが重要であることを再認識させてもらった」と総括した。

5つのグループとファシリテーター

・製薬グループ	塩野義製薬
・エネルギー・環境グループ	住友電気工業
・生活・健康グループ	三洋化成工業
・食品グループ	タマノイ酢
・ITグループ	大阪府警察本部 サイバー犯罪対策課



上:意見を堂々と発信。未来を語る顔は輝いて見えた
下:多数のプログラムを通じて様々な声が寄せられた

奈良女子大学
研究院自然科学系数学領域
准教授

村井紘子氏



私は小学校3年生の頃「素数が無限に存在することの証明と、「双子素数が無限に存在するか」という問題が未解決であることを教わりました。素数が無限にあることが紀元前に証明されていたことに驚くとともに、双子素数に関する素朴な問題が未解決であることに衝撃を受けました。数学の世界には分からないことがあふれています。その魅惑の世界をのぞいてみませんか。

徳島大学
AWAサポートセンター
准教授

石澤有紀氏



私は今、命に関わる病気「大動脈解離」を発症させない方法を探して研究をしています。そんな「研究」の種が生まれる一番はじめの大事なところは、不思議だな、どうしてだろう？こうしてみれば？と考えること。それは資格も立場も性別も、関係ない。実は「研究」ってとっても公平で、興味を持っている人みんなを受け入れてくれるんです。さあ、研究を始めてみませんか？

大阪府立大学 学長特別補佐
人間社会システム科学研究科
現代システム科学域
教授

真嶋由貴恵氏



社会問題に対して医療情報やICT活用のアプローチから解決策を提案し、社会に貢献するための研究をしています。幅広い知見を取り入れるためには、交流を絶やさず、常に新しい風を迎え入れることが大切です。そのためには、多様な状況、環境、立場の方々の、それぞれの考えを尊重して「聴く」姿勢を培ってください。そして、自分の信じた道を、自分で切り開いていきましょう。

大阪市立大学大学院
工学研究科 化学系専攻
准教授

佐藤絵理子氏



高校までは「生徒」が「勉強」するのに対し、大学では「学生」が「学問」をします。よく似た表現ですが、意味は大きく異なります。違いが分かりますか？大学では、教えてもらったことを理解することに加えて、自分で疑問を持ち、自分で調べて、その知識を基に自分でとことん考えることが重要になります。広く、深く、考えられる力をつけてください！

関西医科大学
医学部 救急医学講座
助教

中村文子氏



医学部に入学するまでも、入学してからも勉強はとても大変でした。でも、大学生活は本当に充実していて楽しかったです。医者として仕事を始め、たくさんの仲間とともに、大変なことを乗り越えるやりがいを感じ、患者さんが元気になったときの喜びを感じることができます。いつか皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

i-plug
マーケティング部
インサイドセールスチーム

篠原 萌氏



私たちi-plugはオファー型就活サイトOfferBoxを通じて若い人材の可能性を広げるお手伝いができればと考えています。働く社員に対しても、一人ひとりの自己実現のために働き方を選択できるようにしています。私自身、2人の子どもを育てながら時短正社員として働いています。今やっていることは将来必ず生きてくるので、日々の積み重ねを大事に頑張っていたきたいと思います。

三洋化成工業
高分子薬剤第1研究部
副主任

喜多 藍氏



当社は、性別や年齢に関係なく能力が発揮でき、仕事とプライベートのどちらも充実させることで働きがいのある職場づくりに積極的に取り組んでいます。今まさに育児と仕事の両立に奮闘している私は、家庭環境に合わせてフレキシブルな働き方ができる制度や周囲の理解に助けられています。たくさんの輝く女性がいる職場で、ぜひあなたの夢を実現しませんか。

塩野義製薬
CMC研究本部
分析化学研究所

柘植裕美氏



製薬会社の研究では、画期的な新薬創製を目指し、多くのメンバーと協力しながら、お薬を創っていきます。自らの研究が、多くの患者さんの命を救うことに貢献していると考え、日々とてもやりがいを感じています。研究者を目指す学生の皆さんには、ぜひ、色々なことに興味をもって挑戦してほしいと思います。その経験がきっと将来の研究の糧となります。